

だいすき
大
好
きの
の
代
償
しょう



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

ピンポンパンポーン♪

『二年●組 中川菜々君。二年●組 中川菜々君。 至急西棟第●号室に來なさい』

「あれ？ せつ菜ちゃん、呼ばれたよ？」

「本当ですね。何でしょう。生徒会関連でしょうか」

「あの声って〇〇先生だよね？」

「かすみんあの先生ちよっぴり苦手ですう」

「そーそー。優しくさうだけど怒らせると怖そうだよー」

「うん……。ねえせつ菜ちゃん早く行ったほうが良いよ」

「そうですね。せつ菜さん、振り付けは私と歩夢さんで確認しておきますから」

「はい！ 生徒会関係だしたら長引くかもしれません。みなさんすみませんが

今日はこれで失礼しますね」

「無問題ラ！」

「うん。せつ菜さんおつかれさま」

「Good bye. また明日」

「せつ菜さん、お疲れ様でした」

「気をつけて帰るのよ？ 道に迷わないようにね？」

「クスクス、果林ちゃんじゃないんだから」

「ちよっとエマ？ どういう意味よ」

「「「」」



「中川、呼ばれた理由がわかるか？ 優木せ●菜の正体……お前だろ？」

「!? どうして……!？」

「親に隠して活動とは、感心しないな。この事は親を含め生徒会と学校に報告させてもらおう」
「お、お願いします！ 秘密にしてください……」

「もうス●ールアイ●ルとして活動は出来ないかもな？」

「そうだったら同好会の連中も」

「また、お前が居なくなつて悲しむだろうなあ」

「そんな……私の大好きな場所が……イヤです！」

「まあ俺も鬼じゃない。黙っておいてやっても良いぞ？」

「本当ですかっ!？ 先生、ありがとうございます！」

「まあしかし？ 俺にも見返りが無いといつまでこの口が

閉じているか分からんなく。この意味分かるな？」

「!？ 何をするんですか!？ 触らないで下さい！」

「ほう、いいのかそんなこと言つて？」

「ッ……!」

「なあ、悪いようにはしないつて……」。

「ほらそこに座つてパンツ見せろよ」

「見せたら……約束……守ってもらえるんですか？」

「ククク……もちろんだ」

「……わ、かり……ました……」

「せっかくだからおっぱいも見せろよ」

「キャッ!? ヤダっ!」

「拒否権なんてねえんだよ」

「……うう」

うう……

ハア

「うわ、すげえでかいな。 想像以上だわ。」

「おいおいこんなデカパイで生徒会長は無理だろ。」

「共学だったら風紀乱れまくりだぞ。 けしからんな」

「これ使ってオナってみろよ。 って、オナニーも知らないのか。」

「生徒会長はウブだねえ。 こうやって使うんだよ。 ほら」

「見せるだけって……ひあ!? つあッ……あ!?!?!」

「良い反応だな。 気持ちいいだろ? 振動をどんどん強くしていくからな」

ブルッ!

ズッ!

クッ!

グッ!

ビッッ



「はは。なんだよ中川、お前実は相当エロいだろ？
初めてなのにこんなグチヨグチヨにして。淫乱生徒会長だな」

「ん？ なんだ。イッたのか？ こんなに地面に潮吹いて
いやらしいやつだな」
「ハア……ハア……これで……もう……」
「おいおい何言ってるんだ。そんなわけないだろ。
いつまでも自分だけイッてないで俺のも気持ちよくしてくれよ」
「約……束、がっ……！ はあはあ……違うじゃ……ひあんっ！ ……ないですか！」



「約束は守るさ。ほら、次はパイズリしろよ。教えてやるからさ」
「……それで、どうすればよいのでしょうか。早く終わらせたいのですが」
「怒ってるのか？ 無愛想だな。スールアイールの『優木せ●菜ちゃん』は
そんな無愛想じゃないだろ？ ファンが悲しむぞ〜？」

「ッ……！ 知りません……！ これで終わりですよ。約束……守って下さい」
「ああわかってるさ。先生を『満足させてくれれば』黙っておいてやるよ……ククク……」



「うう……。気持ち悪い……。これで良いんですか……」

「いいぞ中川。思っていた以上に良いものを持っているな」
「……」

「ふう、上手いじゃないか。初めては俺の勘違いで、
もしかして経験済みなのか？」

「……そんなわけないじゃないですか」

「へえ。未経験なのに優秀だな。さすが生徒会長」

「そういう言い方やめて下さい……!」

やわらけエ!!

おっ



「お、気持ちいいな。ふう、こんなにエロいなら先生もせつ●菜ちゃんのファンになりそうだ。」

「……とここでこんな所をファンが見たらどう思うだろうなあ?」

「!? 何してるんですか!?!」

「ファンの童貞くん達見てる? お前らのかわいいせ●菜ちゃんパイズリ堪能中でーす!」

「やめ……っ!」

「えっ!?」

「何をり!!」

「んんん」

「グハッ!!」

「おい、手が止まってるぞ? 消してほしければもっと気持ちよくしろよ!」

「うう……」



「ああ……良いぞ……中川……。
チビのくせにエロいところは
デカイとか最高だなあ」

「ああ……そろそろ……出すぞー！」

!!

!!



「あゝ、スマンスマン。めっちゃ出たわ。ほら、飲めよ」

「っ……ゴクツ……ケホツ、ケホツ……」

「どうだ先生のチ●ポミルクは。美味いか？」

「……最悪です」

「やれやれ可愛くないやつだな」

「……これで気が済みましたか。早く動画消して下さい!!」
「そう焦るなって。まだ本番はこれからなんだからさ……」



「ドゥオ……ッ」

「あ……」

「……」

「ブルッ」

「ブルッ」

「ひっ……!?!? 約束が違うじゃないですか!?!?」

「違うないぞ。言ったろ? 『先生を気持ちよくしてくれれば』って」

「そんな……!?!?」

「中川はほんと小さいなあ。先生の手●ポ、お腹のどこまで届くだろうな?」

「……早く終わらせて下さい」

「なあ、そんなこと言って声震えてるぞ? 怖いのか?」

「……っ」

ム?!

ム/ム

グイッ!

ギン
ギン

ボロン

グッ

グッ

「んーなんかイマイチだな。おっ、そっだ!」

「もっと楽しくなるようにこうしようかな！」

処●喪失記念ってことで記念動画撮影しよ！「生の記念にしよな！」

「えっ……！？ だ、だめです！」

「いいねえその表情。そそ⁰⁰るわ！」

やめ……

「ファンの童貞くん達く見てるく？ W

お前らの大好きなせ●菜ちゃんの処●マ●コにく、生挿入しまくす！」

アキヌツ

アキヌツ



あぁっ!!!

あぁっ!!!

出る!!!

あぁっ!!!

あぁっ!!!

あぁっ!!!

あぁっ!!!

「ウツ！ まだ出るツ……！」

ふう……最高に気持ちよかったぞ中川。

喘ぎ声も可愛いしさすがス●ールアイ●ルだな？

どうだ、初めてなのに中も外も先生のチン●ミルクで

グチヨグチヨにされた気分は

「気持ち……悪い……」

「うわーひどっw 優しくしたのにな」

「はやく……動画……消して……下さい……
こんなの……ヤダ……」

はっ

はっ

はっ

ガクガク

ポッ
ポッ
ポッ

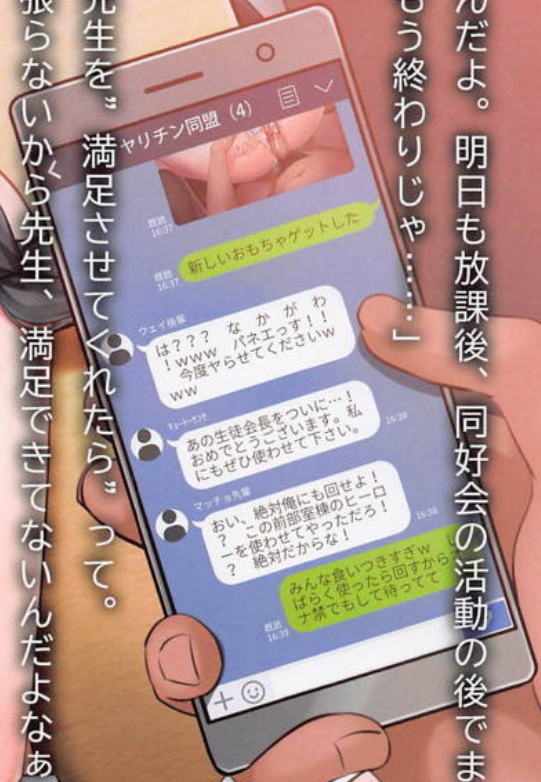
ズ
ズ

ツ
ツ



「は？ 何言ってるんだよ。明日も放課後、同好会の活動の後でまた来いよ」
「そんな……！ もう終わりじゃ……！」

「言っただろ？ 先生を満足させてくれたら……って。」
「もっとお前が頑張らないから先生、満足できてないんだよなあ」



うっ?

ハア

ハア

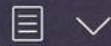
「来なかったらこの動画が匿名でネットに流れるからな？」

「あゝあ、同好会の奴らがどう思うかな？ 活動出来なくて迷惑かかっちゃうんだらうなあ？」

「ッ!? ……わかり……ました……」

「よしよし仲間想いのいい子だな中川は。これから毎日セツ●スだからな？」

ビュッ
ビュッ

既読
00:34

マッチョ先輩

くっそエツ口いな 00:34



ウエイ後輩

うはっwww 裏山っすw
wwww 00:35既読
00:35写真はちょっと前のやつだけ
けど。既読
00:35次の火曜日同好会休みらしい。
放課後みんなでどう？

フォートセシ

素晴らしい写真ですね。
柔らかくてみずみずしい
…。 00:36

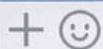
フォートセシ

私は大丈夫です。
楽し
みにしています。 00:36

ウエイ後輩

オッケーっす！！ ひよお
おおwww マジで楽し
みすぎるwww 勃ってきた
からこの写真オカズに今
からオナりますwww 00:36

マッチョ先輩

まじかよ火曜日会議だわ、
くっそめんどくせえ 00:37既読
00:38マッチョ先輩には今度ゆっ
くり使わせてあげますよ。既読
00:40じゃあ、火曜日16時から
。場所はいつもの西棟のヤ
リ部屋でってことで。

「今日は先生の同僚と4Pだ」

「いやマジで中川があの子●菜ちゃんだったとかww」

「実は私も年甲斐もなく以前からせ●菜ちゃんのファンでして……ハアハア……」

「キョートーセンセ、ちゃんと勃つんすか?w」

「うっ」

「はき」

「はき」

「ん」

「ぎぎぎぎ」

「ブル」

「ブル」

「アキ」

「アキ」

「なにを失敬な! まだまだ若い人には負けませんよ……!」

「これでも本校生徒を相手に何人も種付けを……おっとこれ以上は……」

「だってさ、せ●菜ちゃん。このオジサンやべえから壊れないようにねww」

「ほう、これは良い。よく調教されてますねえ素晴らしい」

「そりゃ毎日、個人指導、してますからね」

「うおー！ 中も最高ww やべえ挿れただけでいきそうになるわこれwww」

「フウフウ……中川くん……いや、せ●菜ちゃん……！ せつ●ちゃん……！」

「あの人気ス●ールアイ●ルを犯せる気分はどうですせんせ？」

「良いですねえ。フウ……こうなると更に欲が出ますねえ。今度は別の同好会の娘も同時に犯したいですねえ」

「それはいいですね。他に十一人……いや、あの娘も入れれば一二人もいるわけだし」

ん？！

ん？！

ゴッ
ゴッ

ニッ

又ッ

ゴッ

ゴッ

トノトノ

ゴッ
ゴッ
ゴッ

ゴッ
ゴッ
ゴッ

「おっと、そろそろ閉門時間か。ずいぶんやったなあ」

「ふう、最高WWW もうキ●タマ空っぽだわWWW」

「私はまだまだイケますので、膣内であと何発か……」

「センセ、マジ絶倫っすねWWW エロオヤジすげえわWWW」

あ

ハア

トモッ...

ハア

あ

「二人とも俺に感謝して下さいよ？」
「あざっつすWW」
「お礼に今度は私のお気に入りを紹介しますよ」
「お、良いっすね。あのよく寝てる子とやらせてくださいよWWW」
「あれは上玉ですよ。今度妹と母親も使って親子丼の予定ですが、終わったら貸しますよ」

ゴボォ...

ニユルッ...

「やっと順番回ってきたんだ。今日はたっぷり可愛がってやるからな！
おら！ 早くしゃぶれよ。チンタラ舐めてたら日が暮れちまうぞ！
……もっとこう……するんだよッ！
おおっ！ 気持ちいいぞ！
これがあの優木せ●菜のくちマ●コか！
ったく、最高だぜ！」

ぐんぐん

んんん

ぐんぐん
ぐんぐん

アハ

グホオツ！





「くぅ……良すぎてもういきそうだ……！」

今日のために溜めてたからな……おら、水分補給だしっっかり飲めよ！

ククッ……。喉の奥まで犯してやったぜ。たまんねえな……。

おい今度は跳び箱に手ついて尻向けろよ」

出すぞッ

!!

んぐッ

びびッ
びびッ

「まったく、エロい尻しやがって……！ いつも授業中にお前のカラダ見てムラムラさせられてたんだよ！
おいどうして欲しいんだ、言ってみろよ！」

「……れ……てく……さい」

「ああ？ 聞こえねえな??」

「ステージの上みたいいつものクソデカ声出してみろよ！」

「……先生の……大きなお●んちん……挿れて……下さい……！」

「まったく、どこでそんな言葉覚えたんだこのエロガキが！」



「望みどおりにしてやるよ！ オラァー！」

ウワサ通りの上物マ●コだな！ こんな淫らな奴はきつちり補習授業してやらんとなあ！」

あぁあぁ

んやあ

「どうだ、俺のデカチ●ポは！？」

お前の小さいエロ穴がギチギチになってるだろ！」

オラァー

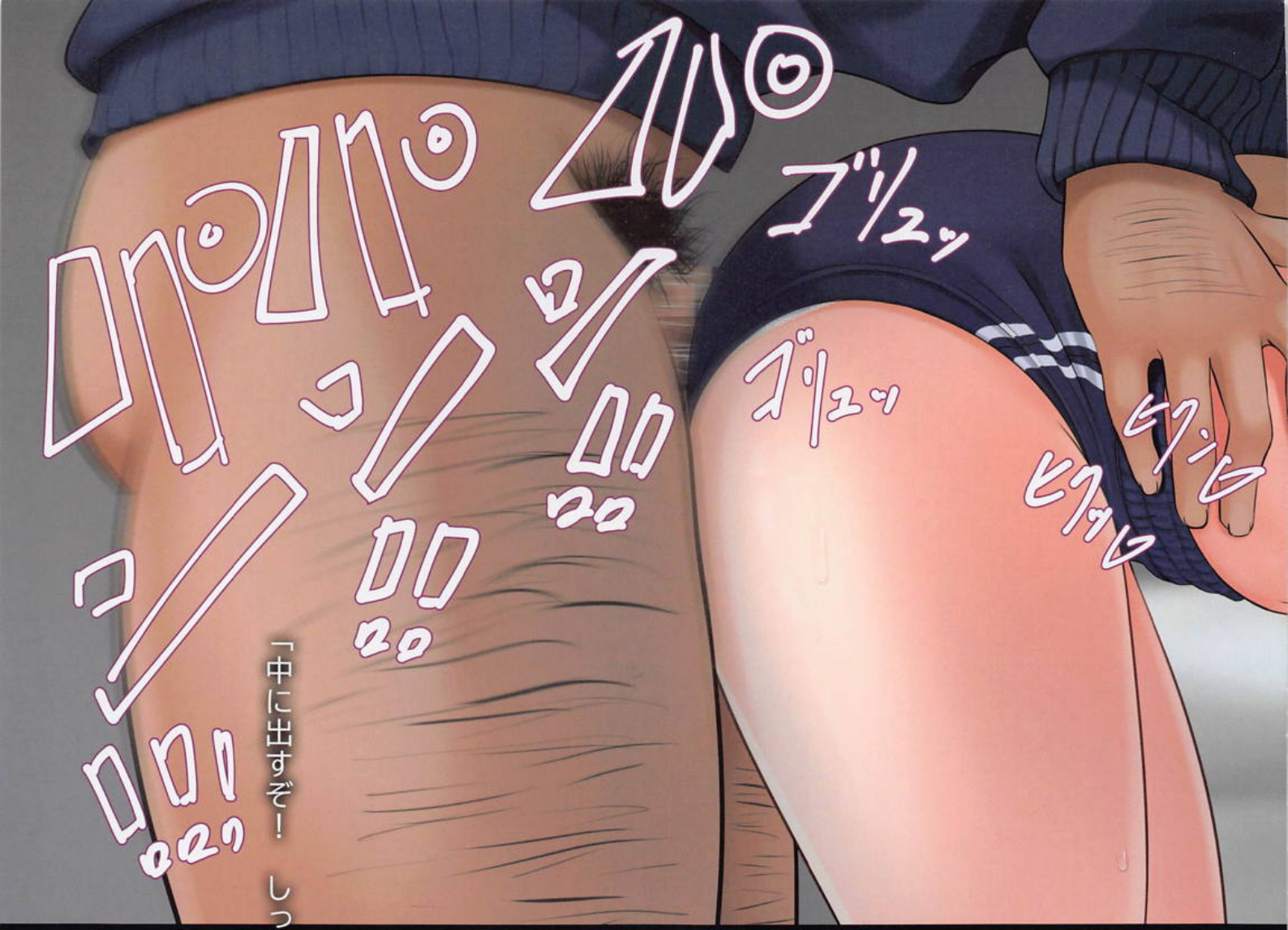
んやあ





「くっくっ……イヤイヤやってるようだが、
お前のマ●コはヒクヒク悦んでるんだよ！
このエロ会長がッ！」





「中」出すぞー！ しっかり孕めよッー！



「ふう、これで六発か。つば、チントレは本物の穴が一番だな。お前もなかなかスタミナあるな。さすがス●ールアイ●ルだぜ」

「おい、またやらせるよ？ 中川！
今度は八発目標だからな。
次までにもっと膣トレしてこいよクククッ」



「それではみなさん。生徒会合宿一日目、お疲れ様でした」

「お疲れ様です会長。お料理いただきましょう。苦手なものとかありませんか？」

「それにしても、立派な古民家ですね。昔話に出てくるみたいです」

「お料理も美味しいですね。遠かったけど来られて良かったですね」

「ほんとうですね。って……あれ……眠く……私疲れたのでしょうか……か……」

「か、会長？ 急にどうしたんですか！？」

「こらあ！ お前たち！」

「えっ、〇〇先生！？ □□先生も……？ どうしてここに？」

「あのな、生徒だけで合宿なんてダメだろ。生徒会なんだからちゃんとしなさい」

「し、しかし、書類は受理されていますし、本校には合宿に関する引率規約は特に——」

「ダメなものはダメだ。まったく心配になって来てよかった。中川を見る。こんなになるまで疲れて……」

「おやおや、よほど疲れてしまったのでしようね。〇〇先生、別室まで運んで寝かせてあげて下さい」

「わかりました。□□先生、この場はお願いします」

「ま、待って下さい！ 女子生徒の部屋に入るのはさすがに……それに会長を一人にするのは」

「なんだその言い方は？ 先生を信用してないのか？」

「い、いえ！ そういう……わけでは……」

「副会長の君が取り乱してはいけませんよ。さあ、このお茶でも飲んで少し落ち着いて下さい」

「そうぞろ。中川のことは先生に任せろ。いいな？」

「はい……」

「さあ皆さん、中川くんは大丈夫ですから——」



「うっ……ここは……きゃー!? 私、どうしてこんな!? えっ!? 先生!? どうして……!?!」
「お、気づいたか。合宿の夕食に盛った睡眠薬結構効いたなあ。
合宿の書類を見たからこそりつけてきたんだよ。で、色々根回しして食事に
睡眠薬盛ったってわけ。よく眠れただろw」

ギテ

ギネツ

ギネツ

「眠ったお前を介抱するって言って出てきたわけだ。
まあ副会長だけはなんかやけに反対したから、
お前も知ってるキョートーセンセに『任せた』けどなw」

「だめです！ 副会長に何もしないで下さい！ あの子は関係ないじゃないですか……！」
「まあそう言うと思うってとりあえず睡眠薬入りのお茶で眠ってるだけだ。」

「が、お前の態度次第ではそれを『介抱』している
キョートーセンセが何をするか分からん」

ズルッ

!?
ダメです!!

「わかり……ました」

「ククっ。いい子だな。せっかくなんだまあ楽しめよ。」

「いつもみたいにイキまくっていいからな」

「イキま……ッ!? そ、そんなことありません！」

「さっきから何度イッたかわかるか？ もうおぼえてないだろ？」
だらしない顔しやがってこのドスケベス●ールアイ●ル。
罰として今日はこのまま一晩吊るしておこうかな」



「お？ なんだよ。急に感度良くなったな。
もしかしてこのまま放置されるの想像して
興奮したのか？ ほんと淫乱だな中川は。
ほら、イけ。お、またイッたな、ははは！」

「ふう……結構遊んじやったな。俺も溜まってたもの出したし、スッキリしたわ」

「お？ 電話か。……ああ、キョートーセンセですか。」

ええ、こちらは楽しんでますよ。

えっ？ 副会長に手出したんですか？

寝顔が可愛かったからつい？

まったくセンセは手が早いですね〜」

ドゥッ……

ふえ……

え……

ハア

ハア

ハア
え……!?

「あゝあ、ほら、中川ショック受けてますよ〜。

仕方がないから俺も後でそっち味見させてくださいよ。じゃ〜」

「ということだせつかくがんばったのにすまん中川」

ビク
ビク



はち

はち

もうだめ...

うう...

「ほら、衣装子エックするから見せてみ？
おやおや？ これはなにかな〜?？」

「ッ！ わざとらしい……！」

「あの優木せ●菜ちゃんがこんな変態だと知ったら
みんながっかりするだろうなあ〜」

「そんな！ あなたがこんなことをさせるからじゃないですか……！」

「はいはい、っと」

「ひあっ!? や、やめっ……!! 強く、しないでッ……下ッ……！」

グイッ
グウッ
ヒクッ
ヒクッ



「どれどれ……うわ、ぐしよぐしよだな。えつろ。
これからライブなのにせつ菜ちゃんの変態だな」
「そんなこ……と……ッ……!?!」
「イキながらそんなこと言っても説得力ないけどなW
脚ガツクガクさせて……。 変態かよW
ほら、時間だぞ。ちゃんと見てるからそのまま行っていいよ」

い
あ
い

ほ
お

あ
っ

は
っ

し
や
き

キュン
キュン

ぐ
ん
ぐ
ん
ぐ
ん
ぐ
ん

が
う
が
う

「せつ菜ちゃん！ お疲れ様っ！ 今日もすっごい可愛かったよ！ 私ときめいちゃった〜！」

「あ……ゆ、侑さん！ だ、だめっ、見ないで！」

「えっ、ご、ごめん！ ……なにかまずかったかな？」

「ち、違っ……！ ご、ごめんなさい。私少し疲れちゃってるみたいです。はは……」

「大丈夫？ ほんとだふらふらしてるというか、脚ガクガクしてる……！ すぐ部屋に帰って休もう！」

「いえ！ 大……丈夫、です！ それよりちよつと行かないといけないところがあつて……」

「そうなんだ……もしかして生徒会？ 無理しないでね？ 絶対だよ？」

「はい、あ、ありがとうございます……っ！ ちよつと、行ってきますね……ッ！」

「フッフ、なかなか気丈じゃないか。あんなにライブ中に何度もイッてたのにな」

「そんなこと……ッ！ あ、ありません……！ 早く外して下さい……！」

「そんなに急ぐなよ？ それに実際まんざらでもないんだろ？ 自分で取ることもできるのにさ。

認めたくなくて気づかないふりをしているだけだろ？ 自分がすっかり快樂に溺れているってことを」

「……！？」

「ははっ！ W 考えてもみろよ。誰かにチクって助けを求められたはずなのにそうしなかった。今もそうだ。

高咲に言えばよかった。そうだろ？ どうしてだろうなあ？ お前、最初からそうだよな？」

「……！ いや……ッ……そんなの……違……ッ……！！ 違ッ……」

「くくくっ。安心しろよ。なあ……今後も俺と仲間がお前を満足させてやるからさ……？」

『だからさ、もっと墮ちろよ……淫乱スクールアイドルの——優木せつ菜ちゃん』



あとがき

こんにちは、灯野水都です！ お手にとって頂きありがとうございます！
今回は珍しく R18 本になりました。ラ！シリーズで R18 本を描くのは初めてですね。僕は本格的な漫画は描けないので、ストーリー有りの CG 集の構成にしてみました。ちょっとダークなストーリーにしたいなと思っていたのですが、描いているうちにどんどんハードな内容に……(;^ω^)
(ちなみにアニメ 2 期が始まる前のプロットなので正体明かす前です)
というのも、中川菜々という子は、陽の面である優木せつ菜を隠すために色々抑圧されている面があって、その雰囲気になんというかこう……えっちくて良いんですよね……！ ともりるの演技のおかげも多分にあると思いますが。今回のストーリーではその抑圧された部分をえっちな方向で表現できないかな～と思って描いてみました。いかがだったでしょうか。実は「大好きの代償」というタイトルですが、脅迫されて無理矢理……という事そのものが代償ではなく、実は行為を重ねる内に次第に変質していく彼女自身の「心」が代償だったり……。とかそこまで考えていたかはわかりません！(´∩`)(あんた作者だろ)

ということで今回はこのあたりで。

最後までお付き合いいただきありがとうございました！

2022.07.02

灯野水都



■
「ラブライブ！虹ヶ咲学園スクールアイドル同好会」ファンブック

大好きの代償

20220710

灯野水都 / Spec.C [ISBN 77517]

[WEB] <http://www.arteporto.net>

[Twitter] @minato_az

[印刷] 株式会社サングループ 様

■

だい
す
だい
しょう

大好きの代償